

# 祈り捧げる古くからの恒例

## 今泉賽の河原例大祭

今泉地区の十三湖を望む霊場で6月23日(土)、恒例の今泉賽の河原例大祭が行われ、雨の中たくさんの参拝者が訪れました。



この例大祭は、古くに大津波と戦乱によって犠牲になった人たちを、残った人たちが供養しようとして地蔵を作ってまつたのが始まりとされ、昭和47年からは今泉賽の河原講中運営委員会(現委員長 小山内清春)が主体となつていろいろな行事を行い、にぎやかに供養するのが恒例となっています。

この日はあいにくの雨でしたが、地区の人たちは、色とりどりの衣装をまとった33体の地蔵の前に祈りを捧げ、亡くなった先祖の霊に手を合わせていました。

また、霊場内の広場では今年もたくさんのイベントを開催。横笛愛好会の登山囃子や、薄市保育所の荒馬踊り、ふるさと交流歌謡ショー、よさこい、芸能発表などのほか、中里中吹奏楽部は雨で広場が使えないため、下のドライブインで演奏を披露。多くの参拝者が、繰り広げられるたくさんの催しを楽しんでいました。

## 海岸の環境浄化作戦始まる

磯焼け対策事業がスタート

岩に石灰質の物質が付着し、海草が生息できなくなることで漁獲が落ちる「磯焼け」現象。近年、小泊地域の沿岸でも確認されていますが、それを解決しようと6月26日(火)、下前地区ライオン海道下で「磯焼け」対策が行われました。

この対策は、魚の食料となるプランクトンや海草を増やすために欠かせない「フルボ酸鉄」という物質を投入するもので、その役割を担うのが「鉄三郎」と名付けられた水質浄化ボールです。この日は、フルボ酸鉄や海水、エサなどを混ぜた液体を1トン投入し、あわせて水質浄化ボールも海中に入れられました。



この対策は、ライオン海道下のほか、小泊漁港付近でも行われ、今後2週間に1度、10月まで合計9回の作業を行って、効果を検証します。

町水産観光課では、沿岸漁獲回復に向け、継続的に磯焼け対策を実施していく予定です。

## 岩木川芦野堰魚道 ヤマメ体験学習放流会

岩木川漁業協同組合が6月2日(土)、岩木川芦野堰魚道で、武田小4年生を招いたヤマメやイワナ放流による学習会を行いました。



この日は、4年生児童10人のほか、保護者や関係者などあわせて約60人が参加。関係者があいさつ後、用意された体長約16〜17センチのヤマメやイワナを放流しました。約2,000匹用意されていることもあり、バケツに入れては放流し、またバケツに魚を入れてもらうことの繰り返し。子どもたちは何度も魚道に向かい、放流を楽しんでいました。

子どもたちは「ヤマメを見るのは初めて。バケツに入れると暴れてて、活きがよくかった。大きくなるようお願いを込めて放流した」と感想を話しました。

この放流を実施した、岩木川漁業協同組合の塚本壯恆理事は「2、3年後にサクラマスで帰ってくるのを願って放流した。みんなが親しめる川になれば」と放流の目的を強調していました。

## 川の環境考えるきっかけに

武田小・中里小児童がヤマメ放流体験



## 深谷沢砂防ダム魚道 ヤマメ放流会

滝ノ沢ふるさと砂防愛ランド内にある砂防ダムで6月14日(木)、中里小3年生児童によるヤマメ放流が行われ、子どもたちや関係者など約60人が参加し

ました。

砂防ダム魚道完成を契機に、(株)白川建設が行っている放流会は今年で4回目。今回は同社のほか、県建設業協会北五支部や町建設業協会も協賛したおかげで、体長7、8センチのヤマメが約5,000匹も用意されました。

関係者があいさつ後、さつそく放流が行われましたが、子どもたちはたくさんヤマメが泳いでいるバケツを持ち、歓声を上げて次々と川に放流していました。放流を終えた子どもたちは「色がきれいなヤマメでかわいかった。元気に育ってほしい」と話していました。

放流会を実施した(株)白川建設の白川勝則代表取締役は「多くの関係者のおかげで、今回は以前より盛大に放流ができた。子どもたちが川の環境を考える契機になれば」と、放流の意図を話していました。